

































|       |   |
|-------|---|
| テロ・治安 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●諜報機関の強化</li> <li>●テロ対策で欧州との協力強化</li> <li>●警官、憲兵を計1万人増員</li> </ul>   |
| 経済・財政 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●公務員12万人削減などで600億ユーロの歳出減</li> <li>●500億ユーロの公共投資</li> <li>●法人税を33%から25%に引き下げ</li> <li>●中小企業の税控除拡大</li> <li>●週35時間労働以上の規制緩和</li> </ul> |

出所：筆者作成による

#### 注・参考資料

- 1 エマニュエル・トッド(堀茂樹訳)『「ドイツ帝国」が世界を破綻させるー日本人への警告』文藝春秋社、2015年、19～78ページ
- 2 シャルル・ド・ゴール(朝日新聞外報部訳)『希望の回想ー第一部・再生』朝日新聞社、1971年、238～249ページ
- 3 トッド、前掲書、28ページ
- 4 ウルリッヒ・ベック(島村賢一訳)『ユーロ消滅?ドイツ化するヨーロッパへの警告』岩波書店、2013年、49～55ページ
- 5 ド・ゴール、前掲書、248ページ
- 6 アレクザンダー・ワース(内山敏訳)『ド・ゴール』紀伊国屋書店、1967年、249～250ページ、アルフレート・グローセル(土倉莞爾他訳)『欧米同盟の歴史』(下)法律文化社、1989年、317～318ページ
- 7 グローセル、前掲書、389ページ
- 8 ティモシー・ガートン・アッシュ(杉浦茂樹訳)『ヨーロッパにかかる橋ー東西冷戦とドイツ外交』(上)みすず書房、2009年、35～58ページ
- 9 ヘルムート・シュミット(永井清彦他訳)『ドイツ人と隣人たちー続シュミット外交回想録』(上)岩波書店、1991年、201～203ページ、208ページ
- 10 シュミット、前掲書、198ページ、209～215ページ
- 11 シュミット、前掲書、208～209ページ
- 12 ドイツ統一については、ガートン・アッシュ、前掲書(下)、413～429ページ
- 13 三好範英『ドイツリスクー「夢見る政治」が引き起こす混乱』光文社、2015年、138～140ページ
- 14 田中友義『EU経済論ー統合・深化・拡大』中央経済社、2009年、47～60ページ
- 15 三好、前掲書、177～180ページ
- 16 渡邊啓貴『現代フランスー「栄光の時代」の終焉、欧州への活路』岩波書店、2015年、188～189ページ
- 17 渡邊、前掲書、194～195ページ
- 18 Germany and Europe: Europe's reluctant hegemon (The Economist, Jun15, 2013)、ベック、前掲書、55ページ
- 19 フランソワ・オランダ大統領のインタビュー(在日仏大使館ホームページ)
- 20 Emmanuel Macron: Europe's savior? (The Economist, June17 2017)